

プロジェクトコーナー

土壌保全と安定した収入を約束する 傾斜地農法によるアグロフォレストリー 2件が完了、今年度も継続実施の予定

これまで進捗状況をご報告してきましたコロナダ
ル市郊外のアロムラオ、オロクロフェ、ダタルフィタ
ク3村の事業(WE21 ジャパンみどり助成)とクハン
村の事業(イオン環境財団助成)の2件がそれぞ
れ1月と3月に終了しました。

数年立てば果樹苗が実を結んで、それ以降は
安定した収入が約束されるという意味で「Pension
Project/年金事業」とも呼んでいるアグロフォレスト
リー事業に、4村の約80世帯が夢を託すことになり
ました。自然相手に市場の動向にも左右される農
業に「年金」のような確実さはありませんが、P1で紹
介のバンカル村のような事例報告が少しずつ増え
てきて、住民も事業の推進をはかる私たちも励ま
されています。



コーン、陸稲とともに、果樹が実るまでの間の有力な
収入源ピーナッツ栽培に精を出すオロクロフェの住民



半年で1mに成長したココヤシとクハン村自然農業組合長・
ファラドさん(右は事業モニター担当の玉置)。本事業でココ
ヤシ450本、接木済果樹苗715本、バナナ1,125本、在来種
(ナラ・ナボル・ラワン・ナト)苗木650本を植えました。

自作マロンで卒業式出席！

ブラクールで実施していた「就学前教育から職
業教育に至る先住民族の包括的教育支援事業」
(ひろしま祈りの石・国際教育交流財団助成)が3
月末に完了し、実習で縫製したマロンを着用した
卒業写真が届きました。

今年の卒業生はハイスクール7名、小学校12
名、本プロジェクト予算で昨年6月に開園した幼稚
園年長組11名が卒園しました。縫製実習はハイ
スクール生だけですが、幼稚園生の一人も実習で使
った緑色の生地のマロンを着て写っています。お
姉さんの作品を借りたのかもかもしれません。



マロンやカーテンを縫っただけで、あるいは、学
校農園のピーナッツやバナナを使ったお菓子作り
を体験しただけで、すぐ仕事に就けるわけではあり
ません。ハイスクール卒業生の多くは当面家の仕
事を手伝いながら職探しをすることになります。本
事業では学校農園で「有機農法によるアグロフォレ
ストリー」の知識と基本的技術もしっかり学びました。
自分の畑で実践すれば農業で自活する道も開かれ
ます。

今年度のあしながカレッジ奨学金予算は24万円
です。2年と3年に在学中の4名が優先されるため
新入生枠はゼロです。カレッジや専門学校に行け
ない大多数のハイスクール生が、この技術職業科
授業を活用して何かひとつ専門技能を習得でき
るように、職業教育を中核とするプロジェクトを継続実
施することになりました。続けて助成いただいた財
団とブラクール定期支援の20名の会員の皆様に確
かな成果を報告できるように、適正な事業実施に努
めてまいります。
(山崎)